玖島弓鬼

故郷ひらき 世をひらく

学校HP

大村市立玖島中学校
学校だより　第29号
R7．1．14発行
文責：校長　大場祥一

令和7年 生徒会役員任命式　引継式

昨年末の12月4日(水)の生徒会役員選挙を受け、令和7年の新生徒会役員を9日(木)に任命し、令和6年に新たな歴史を刻んだ第59代生徒会役員から、第60代新生徒会役員へ襷をつなぐ引き継ぎ式を併せて行いました。これまでの長い歴史を守り抜き、新たな取組を創造した第59代生徒会が創り上げた伝統の上に、第60代生徒会として全校生徒一丸となった確かな伝承と新たな挑戦を始めます。玖島中をさらに本物にすることを、今年も目指します。

第59代生徒会長 退任あいさつ

3年　新宮　詩花

この1年、「前進一百花繚乱一個々の花よ、咲き誇れ」を生徒会スローガンとして、活動してきました。体育大会ではブロックでの練習を通して、クラスや学年を越えて協力し合うことができました。また、合唱コンクールでは、練習を重ねる毎に各クラスの個性が咲き、本番では素敵なハーモニーを体育館中に響かせることができました。他にも様々な行事や総合的な学習の時間などを通して生徒全員が前進することができていると思います。私は2年生のときにも副会長として生徒会活動に携わってきましたが、当時は3年生の先輩についていくことが多く、あまり積極的に行動できていませんでした。しかし、生徒会長に就任し、新生徒会で活動し始めてから、自ら考えて行動することが増え、生徒会長として少しずつ成長することができたと思います。　この1年間は、大変なことも多く、マイナスなことを考えることもありましたが、生徒会役員みんなで支えあい、いろいろな活動をやり遂げることができました。これまで一緒に活動してきた生徒会役員のみなさん、沢山の仕事に追われたときも、みんなで励まし合い支え合えたから、充実した活動ができました。このメンバーと一緒に活動できて本当に良かったです。

新しく就任された渡部生徒会長、そして生徒会役員の皆さん。これまでの玖島中の伝統を受け継ぎながら、皆さんらしく活動し、前進し続けてください。今の玖島中よりもっと良い学校になることを願っています。

最後になりましたが、生徒会役員の皆さん、先生方、そして生徒の皆さんのおかげで無事に任期を終えることができました。1年間本当にありがとうございました。

令和6年　第59代生徒会旧役員

会　長	新宮　詩花	3年	（敬称略）		
副会長	川尻　陽月	3年	渡部　鈴菜	2年	
書　記	川下　夕姫	3年	西　未新	2年	

	専門委員長		専門副委員長	
整美生活	元川　大介	3年	本山　環	2年
文化放送	前田　澪奈	3年	大浦　柚	2年
学　習	馬場　ゆきな	3年	上野　将太	2年
保健体育	山口　蒼生	3年	井上　翔登	2年
給　食	荒木　凛子	3年	伊藤　帆南	2年
図　書	矢數　星良	3年	西　夏鈴	2年

第60代生徒会長 就任あいさつ

2年　渡部　鈴菜

さきほど、任命状を受け取り、改めて生徒会長としての自覚と覚悟が高まりました。

会長挨拶に先立ちまして、まずは新宮会長はじめ、旧生徒会役員の皆さん、これまで玖島中学校を引っ張り、支えてくださりありがとうございました。特に、3年生の皆さんは様々なアイデアを出し、多くの場面でリーダーシップを発揮し、みんなを導いていました。3年生の皆さんのように、良きリーダーとなれるよう努めたいです。

さて、私は選挙の際、「キープスマイルの実現」を公約として話させていただきました。キープスマイルとは、授業や休み時間など、多くの場面で生徒の笑顔が絶えない玖島中学校。楽しいばかりでなく、しっかりとけじめもある玖島中学校をめざすという意味を込めました。そのために、昼休みのレクリエーションで全校の交流を深めたり、リクエストボックスを作成し、皆さんの意見を生徒会活動に取り入れたりしたいと思います。

しかし、笑顔あふれる玖島中学校を作るためには、私たち、生徒会役員のみでは不可能です。ここにいる皆さんの協力が必要不可欠です。これから新生徒会役員で精一杯仕事に取り組みますので、みなさんのご協力をよろしくお願いします。

令和7年　第60代生徒会新役員

会　長	渡部　鈴菜	2年	（敬称略）		
副会長	上野　奏汰	2年	吉本　一貴	1年	
書　記	田中　結咲	2年	岸　香々葉	1年	

	専門委員長		専門副委員長	
整美生活	松山　杏凛	2年	中田　悠斗	1年
文化放送	大浦　柚	2年	中村　旭陽	1年
学　習	上野　将太	2年	中山　咲希	1年
保健体育	本山　環	2年	綱本　瑛仁	1年
給　食	伊藤　帆南	2年	髙橋　拓眞	1年
図　書	田原　かんな	2年	松尾　芽依	1年

飛耳長目

新春恒例の箱根駅伝出場のある大学の強化合宿での話です。

コーチから選手たちに「『僕は』で始まる文章を書きなさい」という課題が出されました。

本番で実力が出ないA君は、「僕は、B君の背中を見ながら走る男」と書きました。B君はその大学のエースです。A君が、こう思い続けている限り、B君に競り勝ち、力を発揮することはできません。A君は、文章を全員の前で読み上げました。するとB君はA君に言いました。

「A君。君は何を言っているんだ。俺は夢の中でも『ああ、今、君が仕掛けてくるな。足音がタッタッと迫ってくる』というところで何度も目が覚めた。俺は、君に走らされているんだよ」と。A君は、ビックリしました。「僕は、B君を苦しめていた男だったんだ」。心が晴れやかになり、自信をもったA君は、次の大会で初めてB君を破りました。それから、二人は、本当の意味でのライバルとして、切磋琢磨、お互いを認め、競い、高まり合う仲になったということです。

皆さんも、何かに行き詰まったら、前を向いて、広い視野から視点を変えて状況を見つめ直してみましょう。きっと飛躍する道が見えてくるはずです。